

猫 の 島 細 胞 腫 の 1 例

金谷俊平¹⁾ 御領政信^{1)†} 佐々木 淳¹⁾ 宍戸 智²⁾ 岡田幸助¹⁾

1) 岩手大学農学部 (〒020-8550 盛岡市上田3-18-8)

2) 岩手県 開業 (緑が丘動物病院: 〒020-0113 盛岡市上田堤1-5-13)

(2009年1月8日受付・2009年5月27日受理)

要 約

16歳齢の日本猫、雑種の去勢雄が、歩行困難、起立困難、ふらつき歩行等があるとの主訴で来院し、初診日の9日後には顔面から前肢に至る痙攣発作が認められた。その時の血糖値は著しく低値で(32mg/dl)、臨床的にインスリンノーマが疑われた。試験的開腹術により、膵臓右葉における直径6mmの単発性腫瘤を摘出、病理組織学的に島細胞腫と診断された。コンゴ赤染色では、間質にアミロイドの沈着が証明され、腫瘍細胞は免疫組織化学的にクロモグラニンAに対して陽性、インスリンに対して陰性を示した。電顕検索では、腫瘍細胞は径100~250nmの分泌顆粒を有していた。短桿状のコアを有し限界膜との間にハローが存在する典型的 β 顆粒はまれで、電子密度の高い球形の異型顆粒が多く認められた。——キーワード: アミロイド, 猫, インスリン, 島細胞腫, 超微形態。

----- 日獣会誌 62, 810~814 (2009)

† 連絡責任者: 御領政信 (岩手大学農学部獣医病理学研究室)

〒020-8550 盛岡市上田3-18-8 ☎019-621-6217 FAX 019-621-6274 E-mail: goryo@iwate-u.ac.jp